

平成26年 第4回 北海道議会定例会〔一般質問〕開催状況

開催年月日 平成26年11月27日(木)
 質問者 民主党・道民連合 笹田 浩 議員
 答弁者 危機管理監

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>一 消防行政について (一) 消防職員の安全衛生について 消防職員は日々、危険と背中合わせで業務にあたっています。全国的に消防活動上の死亡事故や精神疾患による休業者の増加、さらには自殺者まで発生している状況にあると聞いています。 道は、道内や道外での状況を把握し、PTSD、惨事ストレスいわゆるCIS等に対応できるストレスケア対策に取り組み、各消防本部に助言する必要があると考えますが所見を伺います。</p> <p>(二) 広域救急受信基地の防災対策について 本年8月26日に「日本海における大規模地震に関する調査検討会」の報告が示され、概略計算ではあるものの最大津波高と到達予想時間などが示されました。道内では、太平洋側、オホーツク側と合わせて全道的に津波ハザードマップの策定が進んでいます。 消防本部等や消防機能は防災対策の重要な拠点や役割を担う要となっていますが、津波浸水予想区域にある消防本部等も全道には40箇所もある状況であります。 消防職員や消防団員など、その組織機能は消防署が仮に水没しても対応できるよう対策しておけば十分活動できるものと認識していますが、緊急受信機器は対処できないものであります。 そこで伺いますが、津波予想区域内の消防本部等で緊急受信基地となっている所はどれくらいあるのか、その内、広域化により組合消防となり、管轄区域内からの救急通報を一つの本部等で代表して受信している所はどれくらいあるのか伺います。 さらに、緊急受信基地となっている消防本部等が水没などで被災した場合において、緊急通報を受信する対策はどのようにしているのかお伺いをいたします。</p>	<p>(危機管理監) 消防行政に関し、消防職員に対するストレスケアについてであります。大規模災害などにおきましては、消防職員が過酷な現場活動に従事した後、ストレス症状を起こす恐れがございますことから、専門家によるケアなど、ストレス対策に適切に取り組む必要があります。 このため、国では、精神科医等で構成されます「緊急時メンタルサポートチーム」を地域の消防本部に派遣し、必要な助言などを行っており、また、道消防学校におきましては、専門家によるストレスケアの講義を実施している他、市町村によっては、専門医によるカウンセリングなど独自の取り組みを進めている消防本部がございます。 道といたしましては、消防職員へのストレス対策は、大変、重要なものと認識しているところであり、道内外の状況を把握しながら、各消防本部への情報提供や啓発などを行い、こうした取り組みが促進されるよう努めてまいります。</p> <p>(危機管理監) 次に、大規模災害時等での緊急通報の維持についてであります。道内の消防本部等のうち、緊急通報を受ける消防本部等で、津波浸水想定区域内にあるものは31あります。そのうち、複数の市町村を所管する組合消防等で管轄区域からの緊急通報を一カ所で受信しているのは2つの消防本部となっております。 また、東日本大震災において、消防庁舎が被災し、緊急通報を受信できない事態が生じたことなどを踏まえ、国から都道府県等に対し、緊急通報回線の迂回等について通知があり、道は、関係消防本部に代替拠点等の検討を要請しているところでございます。 これを受けまして、現在、複数の消防本部におきまして通信事業者と協議を行いながら隣接消防本部への受信切り替え等について検討を進めており、道としても、緊急時における消防本部等の通信機能の確保に向けた取り組みが促進されるよう働きかけてまいります。</p>